

# デジタル化に遅れる国の現実と末路

## —ドイツのいま、日本の未来—

A5判・上製本／394頁／定価：2200円(本体2000円+税)

著者／コーネリウス・ベルシュ  
トーマス・ミドルホフ

本書は、世界の経済界で著名なコニー・ベルシュとトーマス・ミドルホフが、過去20年に行った様々な仕事の経験をもとに、今なおドイツで遅々としてデジタル化が進まない状況をめぐって書き記したものである。

「新型コロナウイルスの大流行は、デジタル化に向けて、奇しくも追い風となった。例えば、欧州委員会(EC)は、ロックダウンを、2020-2025年のEU戦略であるデジタル変革にとってのチャンスだと捉えた。ドイツのデジタル評議会も先ごろ、デジタル教育を誰もが受けられるように求め始めた。しかしながら、このチャンスに、何もかもが中途半端に終わってしまい、今ドイツが先進的なデジタル国家になるための重大な歴史的瞬間の分岐点であり、好機であるということが正確に認識されていない恐れがあると私たちの目には映っている」(本書より抜粋)。

この序文を読んで頂いただけでも、ドイツにおけるデジタル化の遅れが、日本のそれに酷似しているのはご理解頂けると思う。ドイツが過去20年にわたってデジタル化に関して誤った道を選んでしまった事実を、現在の日本に照らし合わせ、反面教師として読んで頂きたい。

### 【著者紹介】

#### コーネリウス・ベルシュ(博士)

1968年生まれ。起業家、エンジェル投資家。ACGをはじめとする数多くのハイテク企業の創業者。25年に渡り世界中のデジタル分野のスタートアップ企業に出資。2009年に「ヨーロッパ・ビジネス・エンジェル・オブ・ザ・イヤー」に選出。現在、彼の出資企業は350を超え、テクノロジー業界やスタートアップ企業界で最も成功している投資家である。国際的に投資を行うマウンテンパートナーズ(2005)とコニー社(2019)の創業者であり、2005年～2012年当時、ドイツの副首相兼外相ギド・ヴェスターヴェレのアドバイザーを務めた。

#### トーマス・ミドルホフ(博士)

1953年生まれ。ドイツ最大の出版社ベルテルスマンのインターネット戦略の責任者を経て元最高経営責任者。彼が退任する頃には、ベルテルスマンはAOLやライコス、ベルテルスマンeコマース・グループ、そしてナップスターなど、オンライン部門を擁するデジタル業界世界最大手のメディア企業の一つとなっている。AOLがタイム・ワーナーを買収した際には、AOLの役員としてその買収に携わっている。世界最大手の新聞社であるニューヨーク・タイムズの役員を2014年まで務め、同社のデジタル化を成功に導いた。

### 【訳者紹介】

- 鈴木 章能(長崎大学教授)
- 小林 康男(星城大学元教授)
- 白石 治恵(阪南大学教授)
- 瀬上 和典(東京工業大学兼任講師)
- 丸山 真純(長崎大学准教授)
- 原 由紀恵(長崎大学助教)

ご注文申込書	貴店名・帖合	注文数	発行：一粒書房 TEL.0569-21-2130
		冊	<b>デジタル化に遅れる国の現実と末路</b> <b>—ドイツのいま、日本の未来—</b> コーネリウス・ベルシュ トーマス・ミドルホフ[著] A5判・上製本／394頁 定価：2200円(本体2000円+税) ISBN978-4-86743-090-3 C0033 ¥2000E

ご注文は JRCへ → FAX.03-3294-2177 ※返品条件付き注文扱い